

第5期 麻生区区民会議 第1回全体会議

- 1 開催日時 平成26年8月4日(月)午後5時3分～午後7時23分閉会
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]  
石井(郁)委員、石井(よ)委員、石川委員、植木委員、上野委員、  
岡倉委員、小尾委員、金光委員、志村委員、白井委員、菅野委員、  
高倉委員、高橋(克)委員、高橋(慶)委員、林委員、宮本委員、  
山田委員、吉垣委員  
(欠席) 梶委員、横田委員  
[参与]  
相原参与  
(欠席) 雨笠参与、尾作参与、勝又参与、木庭参与、月本参与、花輪参与、  
山崎参与、  
吉田参与  
[事務局]  
鈴木課長、蛭川課長補佐、白石担当係長、藤江、麻生、佐藤  
[関係者]  
多田区長、中山副区長、安藤区民サービス部長、  
浅見保健福祉センター所長(医監)、大西保健福祉センター副所長、  
小林こども支援室長、杉山総務課長、中村地域振興課長、  
猪瀬生涯学習支援課長、三枝危機管理担当課長、  
藤田道路公園センター管理課長
- 4 傍聴者 1人

麻生区区民会議 第1回全体会議

日 時 平成26年8月4日(月)

午後5時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後5時03分開会

1 開 会

司会 定刻を少し過ぎましたが、皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中、またお暑い中、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまより第5期第1回麻生区区民会議を開会させていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます副区長の中山と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

委嘱状交付

司会 初めに、多田麻生区長より、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきます。

それでは、お名前を読み上げさせていただきますので、自席でお立ちいただきまして、委嘱状をお受け取りくださいますようお願いいたします。

それでは、区長、よろしくお願いいいたします。

[ 委嘱状交付 ]

司会 ありがとうございます。なお、梶委員につきましては、所用のため欠席でございます。また、白井勇様、横田豊様におきましては多少おくれるというご連絡が入っておりますので、よろしくお願いをいたします。

委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、第1回麻生区区民会議を開催させていただきます。

初めに、麻生区長よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

区長 皆様、こんにちは。麻生区長の多田でございます。

本日は、第5期の麻生区区民会議の第1回目の会議ということで皆様にお集まりいただきました。ありがとうございます。司会者からもございましたが、大変お忙しい中、そして、特にこの二、三日暑い中、お集まりいただき、本当にありがとうございます。

区民会議も5期を迎えるということで、1期、2期、3期、4期それぞれ区民会議委員の皆様へ麻生区政に対しまして様々な貴重なご意見をいただいております。その提言をいただく中で、委員の皆様自らが課題を解決して、大変有意義な活動を行っている部分や区に対してこういうことをしてはどうかということでご提言もいただ

き、区のほうで事業化をして進めている事業は様々ございます。また、この第5期に、今度皆さん方で区の課題について改めてテーマを絞って、2年間という、長いようで、終わってみると少し時間が少なかったなという意見が毎回出るわけでございます。昨期の区民会議も、団体のヒアリングなど、全体会、専門部会を含めて150回ぐらい会議を開いていただき、大変熱心にご議論をいただきました。この5期につきましても皆さんの取り組みに期待をしたいと思います。

区民会議につきましては、既に前回、勉強会ということでお集まりいただきまして、概要の説明もさせていただきました。麻生区は分区32年目を迎えて、このところマスコミなどでは消滅危険都市という、危機がある、人口減、こんなことが課題になっていますが、マスコミなどでも紹介されましたように、川崎市は、自然増、社会増とも大変伸び盛りの町が続いています。

麻生区も人口についてはずっと伸びているわけですが、麻生区は新百合ヶ丘駅がちょうど40年前に開設されて、多摩線も開業しました。また、40年前の人口というのは6万人ぐらいですが、現在は17万5000人に迫るといことで、3倍ぐらいになってきました。人口は増えているのですが、この二、三年の傾向を見ますと、全市平均で、人口が増えるというのは子どもが生まれるとか、市外から川崎市に引っ越してこられる方が多いなどこれは増える要素です。それから、お亡くなりになったり麻生区から市外、区外に転出される方、これは減要素になりますが、川崎市全体の平均値と麻生区を比べてみますと、自然増、お子さんが生まれる数というのは全市の平均よりも少し低いです。それから、区外から区域に入ってくる転入率も全市の平均から比べると少し低いです。大変多くの方が引っ越してきて移り住んでくる、あるいは小さなお子さんも多いので、自然増というのも多いかなと思いますが、全市の平均から比べると少し低いです。それから、死亡率も全市の平均より低いです。それから、一番大きいのが転出率、区内から区外に引っ越す人は全市の平均よりもすごく低いです。したがって、伸びる要素は全市の平均よりも少し低い、しかし、減る要素は、特に転出が少ないので、その分人口は増えているという傾向がこの二、三年です。大変緑豊かな環境で、暮らしやすく、また、麻生区のこの40年間の開発というのは定住志向が強い開発なので、入ってきていただくと、それから転出する率が少なく、ずっと麻生区に住み続けていただく方が多くて人口が増えているというのがこの状況です。

しかし、今、川崎市も新たな市長のもとで新たな総合計画をつくっていますが、通常ですと10年、15年ぐらいを1つの大きなスパンで考えるのですが、この先やっていますのは、川崎市、麻生区は今人口が増えていますけれども、あと10年、20年の間にはピークを迎えて人口減少が始まるという推計が出ています。そうしますと、10年、15年ではなくて、もう少し長いスパン、30年ぐらいの麻生区の今後のあり方も含めた計画を今つくっているところです。

そうしますと、区域内にずっと移り住んでいる方が多いわけですから、そうした区民の皆さんの意見をしっかり計画に盛り込んでいきませんか、行政が二、三年のデータを調べて、麻生区は将来、こうだあだと言っても話になりません。そこで、そういう長い大きな総合計画につきましては、区民の皆さん、そしてこれから暮らし続ける皆さんの意見を本当にしっかり伺って計画の中に反映していきたいと、こういう作業も同時に進めているわけでございます。

この区民会議の中では、そうした30年先もそうですし、現実にも今、暮らしていることでの課題がございますね。緑が多いのだけれどもどのくらい多いのだろうと。川崎市全体の山、緑の43%が麻生区に集中しています。前回、5年前の調査ですと42%なので、増えたのかと思いますが、市全体で緑が少なくなっていて、麻生区も少なくなっているが、他よりも緑の減り方が少なかったもので、比率で43%になっただけで、大変緑が豊かな環境だけれどもやはり開発も進んでいます。また、少子高齢化の中で大変高齢化の高い地域もあります。そして、このまちづくりの30年は特に、1つの新百合ヶ丘をブランドとして芸術や文化を中心としたまちづくりを進めてきましたので、こういう取り組みもあるということです。

様々な課題がありますので、その中で、区としても、区の基本目標などを含めてしっかり取り組んでいるところでございますが、もっと身近な地域の課題ですとか、あるいは大きな課題でも、もう少し行政はこうしてもらったほうがいいのではないかなど、ご指摘いただきまして、しっかりと区民会議の中の取り組みとして成果を私どもにいただければと思っているわけでございます。

長丁場になると思いますけれども、どうぞ2年間、よろしく願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

### 3 委員・参与紹介

司会 ありがとうございます。

続きまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。恐れ入りますが、石井委員より五十音順に自己紹介をお願いいたします。

石井（郁）委員 区長推薦ということで、地域特性、芸術文化という分野で推薦させていただいています石井です。前回の勉強会でもお話しさせていただきましたけれども、3期、4期と務めさせていただきました。NPOの「しんゆり・芸術のまちづくり」ということで、今後もこの形で参加させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

石井（よ）委員 石井よし子と申します。よろしくお願いいたします。里山フォーラム in 麻生という団体からの推薦でございます。里山フォーラム in 麻生がどういう活動をしているのかというのはわかりにくいかと存じましたので、先ほどパンフレット

(2014春号：活動報告号)を配付させていただきました。かなり総合的、包括的、多角的に取り組んでおります。里地里山を保全するということが非常に難しいということは皆さん重々ご承知のことと存じますが、どうぞよろしく申し上げます。私といたしましては、区民会議は初めてですので、よろしく申し上げます。また、区内のいろんな分野、多様な分野の方々と一緒に知恵を合わせたり、話し合いをしていくことを大変楽しみにしております。

石川委員 石川和香子と申します。今は岡上という飛び地に住んでおりまして、川崎都民のような感じで、40年ぐらい麻生区には住んでいるのですが、余り関心がないというのはおかしいのですが、勤めていたときには東京でしたので、やはり都民という形で、なかなか川崎のほうに目を向けることがなかったのですが、最近、60歳を過ぎ、町のことや川崎市、麻生区のことを考えて、高齢者が非常に多くなっているのではないかな。麻生区の市民の30%以上が高齢者なのではないかなど考えていきますと、これから長く元気に生きるためにスポーツなどをどんどん増やし、特に家にいるような、外に出てこない高齢者の方をぜひ外に出して、病気をしないで長く生きられるようにしたらいいのではないかと思います、区民会議に応募しました。よろしく申し上げます。

植木委員 皆さん、こんにちは。あさお市民活動サポートセンターと言ってもわからないかと思いますが、麻生市民交流館やまゆりを管理運営しているところでございます。そちらのほうから参りました。よろしくお願ひしたいと思ひます。このたび川崎の市制90周年で奨励賞をいただくことができました。関係各位の皆様に対しまして、いろいろとご支援をいただきましたことにつきましてお礼を申し上げたいと思ひます。ありがとうございました。以上です。

上野委員 皆さん、こんにちは。上野と申します。一般の公募で参加させていただきました。私自身は麻生区に住んでかれこれ約20年です。麻生区で仕事をやり始めてかれこれ12年ぐらいかと思ひます。今回、応募させていただいた動機というのは、この間行われました子育てフェスタを見ていて、わあ、おもしろいなと思ひました。おもしろいなと感じたのは、ご年配の方々と若い大学生さん、あとは地域のお母さんたちが一緒になって1つの企画をやっている、それも大いに盛り上がっていたので、こういうのはおもしろそうだなと思ひまして、今回、参加させていただきました。

以前、ボランティアとしては、文部科学省が母体になって、日本機械学会というところが中心になって、物づくりとか、ロボットづくりを推奨していこうということをして2000年ぐらいにやっていました。そのときに副委員長としてお手伝いをさせていただきました。そういうところでいろいろ学ばせていただいたことが非常におもしろかったなと思ひております。今回もまたいろんな方とかかわることで教えていただければ楽しいし、勉強になるなと思ひております。ひとつよろしくお願ひいたします。

岡倉委員 皆さん、こんにちは。岡倉と言ひます。私も一般公募で参加させていただいて

おります。先ほど区長のほうから、40年前の麻生区は6万人でしたというお話がありました。私はそれよりも前から柿生に住んでおりましたので、ひとつよろしく願いたいと思います。私がこの区民会議に参加した動機というのは、私は5月まで働いておりました。6月から急に何もやることができなくなりました。それで、その時間を何かひとつこの区民会議の中で生かしたいなというふうに思いました。月に2回でも3回でも出席したいなと思っていますので、ひとつよろしく願いたいと思います。

小尾委員 小尾静枝と申します。よろしく願いたいと思います。私は、今回、健康づくりの実行委員をやりまして現在に至っております。健康づくりの実行委員のボランティアとしては、食生活改善推進委員として参加いたしました。主に食生活改善委員は、今のところ高齢者の食事とか、あと親子の料理教室等をやっております。もう1つ、ボランティアとしましては、そこのグループから発信できました柿の実会というところで、お弁当づくりと配食をしています。配食のときには、今、皆さん、注目があります見守りも兼ねてやっております。今回、こちらの会議は初めてですので、よろしく願いたいと思います。

金光委員 金光と申します。私は、3期、4期と区民会議をやらせていただいたのですが、また5期もぜひやってくださいという依頼を受けまして、またこの場に参加する形になりました。大して役に立たないと思いますけれども、精いっぱいやりたいと思いますので、皆さん方、ひとつよろしく願って申し上げます。

志村委員 志村節子と申します。区長推薦ということで、私は、麻生区観光協会から出てまいりました。観光協会のほうは、市制90周年のイベント等にかかわっております。今年、10月からいろいろなところで市制90周年ということアピールしていくために1カ月間は忙しくなると思っております。そして、ボランティア的なことは、民生委員を10年務めております。あと、一番の関心事というのは、この前の勉強会でいろいろ資料を頂戴いたしましたので読ませていただきましたが、よくわからなかったというのが感想です。自分として一番関心があるのは、先ほど区長さんもお話しになっていた川崎市のグリーンベルトの43%が麻生区にあるということで、そのグリーンベルトの活用法がとても関心のあることになっております。以上です。

菅野委員 菅野明です。麻生区文化協会に所属しております。PRですけれども、麻生区文化協会はことし30周年を迎えます。11月1日に記念公演、式典などを行います。そろそろ皆さんにも宣伝をしていきたいと思っております。よろしく願います。私は4期もやりましたが、5期も頑張りたいと思っております。よろしく願います。

高倉委員 高倉でございます。公募委員でございます。4期に引き続きということで、よろしく願います。3年ほど前に、世間一般の常識よりちょっと早目に会社をやめました。その後はボランティアでもしながら、自分の経験を生かせる地域活動をやっ

ていきたいなと思っていましたところ、区民会議を知り、4期の委員になりました。現在は、区民会議のほかに、NPO法人あさお市民活動サポートセンターでボランティア活動もやっております。よろしく願いいたします。

高橋（克）委員 地域特性、6大学連携の中の和光大学から来ました高橋と申します。よろしく願いいたします。前回の勉強会でもお話ししたのですが、和光大学は本部が東京都の町田市にございまして、キャンパスの中が東京都と神奈川県に分かれているような状況になっています。ということで、警察などを呼ぶときも、その起きた場所によって、神奈川県警を呼ぶのか、警視庁を呼ぶのかということで最初に聞かれたりしますが、そういう特性になっております。主に、東京都に本部があるのですが、通勤通学経路が麻生区の岡上地区ということになっておりまして、私は事務職員なのですが、実際に、教員が何か地域と一緒にやるときは麻生区の岡上地区の方々と一緒にやるのが非常に多くなっております。私自身は、東京都多摩市の住民で、特に川崎市とは仕事絡みでしかおつき合いがないのですが、この機会にいろいろ勉強したいと思っております。よろしく願いいたします。

高橋（慶）委員 麻生区町会連合会から推薦いただきました高橋慶子と申します。麻生区町会連合会というのは、地域、町会106団体の町会連合ということで、私も15年小さな町会の会長をしておりまして、その中で皆さんといろいろともに活動していくことが本当に大好きな一人です。どうか今期もよろしく願いいたします。

林委員 公募で参りました林と申します。よろしく願いいたします。私が一番関心のあることは、前回には申し上げなかったのですが、やはり食の安全ということです。小さなお子さんの体はやはり食べ物でできているよということで、食べ物の安全のことをずっと活動の源としてまいりました。でも、安全な食は安全な環境からしかできないのではないかなということで、麻生区の地域の中では環境活動にかかわっております。大きくは、廃食油の回収ということで、台所から地球温暖化防止ということで、そういった活動、それから廃食油を石けんに変えて、安全な石けん生活を送りましょうねというようなアピール、そして、BDFを使いまして、資源循環ということで、台所から出る天ぷら油でバスを動かしたりなど、やはり地域の中で資源も含めて地域循環できればいいなと考えております。よろしく願いいたします。

宮本委員 こんにちは。宮本善夫と言います。この前、7月下旬の勉強会に初めてこういう会議がということで出た全くの新米です。麻生区社会福祉協議会からバトンタッチを受けまして、出てきた者です。私はもともと2000年ぐらいに退職し、そして自分の子どもが知的障害者なものですから、その面倒を家内からバトンタッチして、10何年いろいろと障害者の団体でやってきたのですが、逆に言えば、そういう福祉の関係しか、どういうふうに麻生区をよくしていくかよくわからないものですから、専ら社協と連携もとりますけれども、福祉のほうでいろいろ進言できればいいかなと思ってお

ります。よろしくお願いいたします。

山田委員 山田と申します。団体推薦で麻生区地域教育会議から委員として入っております。麻生区の住民になりましたから今年でちょうど12年目になりますので、ようやく10年過ぎまして、自分も麻生区に住みついできているなという意識を持っております。前期、4期の中で私が担当しましたのは子育て支援体制の構築ということで、子育て支援を中心に、地域の保育行政、お母さん方にもっと元気になってもらうようないろんな施策を支援し、いろんな皆さんとの協働で進めてまいりました。その中で、やはり区民が行政と協働で1つのプロジェクトに取り組んで結果を出していくということの充実感というか、大事さを実感いたしました。今期はさらに子育て世代からもう少し対象を広げて、子ども支援に力を入れて行けたらいいなと考えております。よろしくお願いいたします。

吉垣委員 こんにちは。20番目の吉垣君子と申します。区長推薦で、地域特性、児童・地域福祉のほうをやっております。民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員部会の部会長をしております。よろしくお願いいたします。

麻生区から、4月の子育てフェスタのときにお声がかかりまして、私たち民生委員児童委員協議会と主任児童委員がお手伝いということで、初めて区民会議にボランティアとして参加させていただきました。各民生委員児童委員協議会の中では、6地区の中で7つ子育てサロンを1カ月に1回開催しております、そこに来るお子様たちがやはり少し少ないかなと思っていたのですが、子育てフェスタのときに、麻生区にはこんなにいるのだなと改めて思いましたので、こういう子育てフェスタみたいな感じで、子育てのほうにかかわっていければいいかなと思ひまして、参加させていただきました。初めてですので、何もわからずに勉強から始めたいと思ひますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

司会 皆様、ありがとうございました。

続きまして、参与のご紹介をさせていただきます。相原様、よろしくお願いいたします。

相原参与 ご苦労さまでございます。神奈川県議会議員の相原高広でございます。川崎市の区民会議の条例では、区選出の県議会議員、市議会議員は全員が参与になるということになっておりますので、本日出席をさせていただいたところでございます。2年間本当にご苦労さまでございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

司会 ありがとうございました。

なお、参与の方は、もし後ほどお見えになりましたら、またその時点でご紹介をさせていただきます。

続きまして、区役所から出席しております職員のご紹介をさせていただきます。

[ 職員紹介 ]

#### 4 議 事

司会 続きまして、本日の議事並びに資料についてご確認をさせていただきます。

事務局、お願いいたします。

事務局 では、事務局のほうから説明させていただきます。

本日の区民会議は、川崎市審議会等の会議公開に関する条例第3条に基づき公開となっております。したがって、傍聴及び報道関係者の取材につきまして許可をしております。また、市政だよりなどの広報資料としまして会議録の作成及び撮影をさせていただきますので、どうぞご了承をお願いいたします。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

一番上に本日の会議の次第でございます。資料1として、席次表、資料2として、麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3として、第5期麻生区区民会議運営要領（案）、資料4として、市長講話「区民会議について」、参考資料としまして、1、麻生区区民会議調査・審議課題選定基準、2、第5期麻生区区民会議スケジュール（イメージ）、3、第1期～4期麻生区区民会議審議と提案への取組一覧、4、区民会議関係規定、5、麻生区の現状と課題、その下に里山ボランティアのチラシがございます。資料に不足等はございませんでしょうか。よろしいですか。

あと、既にお渡ししております第4期報告書や区民会議のリーフレットなどをお持ちにならなかった方はお申し出ください。事務局で用意いたします。

それでは、本日の議事について確認をさせていただきます。次第をごらんください。4の議事といたしまして、次の4点について審議をお願いいたします。

第1に、委員長の選出について、第2に、麻生区区民会議の運営について、第3に、副委員長の選出について、第4に、第5期麻生区区民会議における調査・審議課題の検討についてでございます。よろしくをお願いいたします。

##### (1) 委員長の選出について

司会 それでは、次第4の議事に入らせていただきます。本来ですと、委員長により議事の進行をするところですが、委員長選出までの間、進行役を企画課長が務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

事務局 それでは、議事に移らせていただきます。

初めに、議事(1) 委員長の選出についての審議をお願いいたします。

委員長は、区民会議条例第5条に基づき委員の互選により定めることになっております。委員長に立候補される方、もしくは推薦する方はいらっしゃいますでしょうか。

石井(郁) 委員 自分が立候補するわけじゃなくて、推薦をさせていただきたいと思いま

す。

今もお話をお伺いしましたけれども、3期、4期と我々は経験しております、企画部会長として活躍された金光委員を推薦させていただきたいと思います。4期ときにはいろいろな問題がありました。でも、そういうのも経験して乗り越えてこられましたので、今回非常に期待しておりますので、ぜひ金光委員にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

〔拍手〕

事務局 よろしいでしょうか。では、今、拍手がありましたので、金光委員に委員長にご就任いただきたいと思います。金光委員は、委員長席のほうへお着きいただけますでしょうか。

〔委員長 着席〕

事務局 それでは、金光委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

金光委員長 いきなり推薦されてびっくりして、何をしゃべっていいか、今のところ頭に浮かんでできませんけれども、確かに3期、4期と区民会議の企画部長をやらせていただきました。その中でいろいろ問題がありましたけれども、自分としては無難に議事を進行してこられたなと思います。割合、おもしろい議題を3期、4期とやってきました。特に4期の場合は、育児ということで、麻生区に若者が住みたくなるような魅力あるまちづくりということで、これからの麻生区というのはどういう形の町にしたらいいのだろう、若者がどんどん集まってきて住みやすい町にするにはどういう形の町にしたらいいのだろうというようなことをベースにして検討し、そのためには、やはり育児が問題だろうと。安心して楽しく子どもを育てられるような環境づくりができれば、その対象となるような若い奥さん方が積極的に麻生区に来て生活するような環境が出てくるのではないかと、それによって子どもたちも増え、したがって麻生区も活気ある町に発展していくのではないかとというようなことをベースにして4期はやり、そして、それが子育てフェスタというものへ結びついて、皆さん、一致団結してすごい成果を上げられた。これが終わって、大変満足して終わった段階で、また5期をやるとは想像もしていなかったのですけれども、今回また推薦されてこの場に出るような形になりました。

これからうまくできるかどうかわかりませんが、これもひとえに皆様方のご協力がなければ大変難しいことだと思いますので、ぜひともひとつ、いろいろな面で至らないと思いますけれども、助けていただき、協力をいただいて職務を全うしていきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。(拍手)

事務局 それでは、ただいま白井委員がお見えになりましたので、一言ご挨拶をお願いいたします。

白井委員 ちょっと遅れまして、申しわけありません。

まちづくりということで、今回はまちづくり財団から推薦をいただきまして、それから区長推薦ということで参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは、これからの議事の進行につきましては金光委員長にお願いいたします。

## (2) 麻生区区民会議の運営について

金光委員長 それでは、早速議事を引き続き進行させていただきたいと思います。

議事(2) 麻生区区民会議の運営については、事務局からまず説明をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 それでは、資料3を見ていただきたいのですけれども、第5期麻生区区民会議運営要領(案)というものでございます。

第1条で、麻生区区民会議の運営に関し必要な事項を定めるということでございます。これにつきましては、条例規定にないものをこちらの要領で定めるということでございます。

第2条でございますが、「副委員長は2名とする。」

第3条ですが、「区民会議は、原則として年4回程度開催する。」

第5条でございますが、「専門部会の設置及び廃止は、委員長が区民会議に諮って決めるものとする。」、第2項で「専門部会は、課題検討専門部会及び企画部会の2種類とする。」、第3項で「専門部会に副部会長を置き、専門部会に属する委員の互選により定める。」

第6条ですが、「企画部会は、正副委員長、課題検討専門部会の正副部会長及びその他委員長が区民会議に諮って指名する委員で構成する。」、第2項で「企画部会は、次に掲げる事項を処理するものとする。」ということで、区民会議の運営に関すること、調査審議課題の整理に関すること、区民会議の広報及び広聴に関することとございます。

次のページ、第7条でございます。「委員長は、専門部会の部会長を兼務できないものとする。」、第2項で「専門部会の部会長は、他の専門部会の部会長を兼務できないものとする。」ということで、委員長、専門部会長、企画部会長は兼ねることができないということで、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

金光委員長 ありがとうございます。

第5期麻生区区民会議の運営について、今、事務局から説明がございましたけれども、これについて何かご意見はございますでしょうか。

岡倉委員 第4条の議事運営のところで、「区民会議の議事は、出席委員の一致により決

することを原則とする。」と書いてありますけれども、これはどういう意味でしょうか。

事務局 第4条の関係ですけれども、区民会議は皆さんの話し合いのもとに行われますので、話し合いの中で決定していただきたいということでございますけれども、どうしても一致しない場合は決をとるという規定でございます。

以上でございます。

金光委員長 今までの区民会議で、それぞれの部会でいろいろ議事進行をしていくわけですけれども、議論をしている段階においてはそれぞれの人がかかなり意見を言い合い、ぶつけ合います。それをしながら、やはりいろんな人の意見が出ないと結局いいところへ結論が導き出せないわけです。そういう意味合いでは、思っていることを皆さん方が忌憚なく言い合って、そして、それぞれの言い合った意見を尊重し合って、それで最終的にどういう方向へ進むか導いていくということがやはり会議をうまく運営していく1つの方法だと思います。

その意味では、あくまでも自分の意見だけに固執してしまっていて譲らないというようなことのないように、ある一定の段階において、その意見が納得できるものであれば、全員の意見に従って行動するということがやっぱり必要になってくるのだと思います。そういうことをここで言っていると思いますので、やはりお互いが納得し合うということが会議をうまく運営していく上で必要なことになるのだらうと、その点も十分理解した上で会議に参加していただければ大変ありがたいと思います。

以上ですが、それ以外に何か——どうぞ。

上野委員 こちらは案でしょうか、それとも条例として何か決まっているものでしょうか。資料を見ると、右上に、タイトルの横に運営要領（案）となっていますけれども。

事務局 こちらはつきましては案でございまして、これから案を承認していただくような形になります。

上野委員 それは次の打ち合わせでやるということでしょうか。

事務局 今、この場で。

上野委員 前回の会議で皆さんの話を聞いていると、運営のあり方でかなり白熱されていたように思うのですが、そういうのを今からまた話し合うということですか。

事務局 そういうことを考慮して、こちらのほうの要領を決めておりますので。

上野委員 では、ここで承認すると、もう運営のあり方が決まってしまうということですか。

事務局 そういうことでございます。

上野委員 そうすると、では、今からこの案でいいかどうか話し合うということですか。

金光委員長 そういうことです。特に第1条から第9条までございますけれども、これに

ついて、これではまずい、ここのところはこういうふうにするべきだということではございますか。なければ、これでいいということで、皆様方は了承したという形にしたと思うのですが、いや、少し待ってくださいという人はいらっしゃいますか。

上野委員 この間の話を伺っていると、大きく2つの案があったのかなと思うのですが、この案はどちらに基づくような考え方ですか。この間話をしていたときに運営のあり方に関して大きく2つの話があったように思います。それで言うと、これはどちらのほうに近いのでしょうか。それとも、関係ないのですか。

金光委員長 それとは関係ございません。前回の話し合いとは別です。

区長 区民会議そのものは条例で決まっている会議ですけれども、前期の4期の委員さんはこの間期限切れで退任をされまして、今度5期がスタートしますけれども、その期ごとに会議に必要な定めをつくるというのがありまして、これは第5期となっております。第4期は第4期でありました。

第5期はこの要領の中でどういうことを決めるかということ、話の内容よりも、テーマではなくて、部会を設けたり、委員長を設けるとか、議事の規則とか、いわゆる議事運営規則的なものをここで1回決めておきましょうということなので、これによって、これからつくるさまざまな内容ですとかテーマが縛られるということはないです。これは、毎回、期ごとに要領をつくるという仕組みです。

上野委員 わかりました。どうもありがとうございます。

菅野委員 この間、いろいろ議論になったというのは、こういうシステムよりも、話の仕方、進め方というのですか、話し合いをどういうふうに集約していったら、どういう課題をつくっていくか、その辺のところの方法論のようなものが議論になったのだと思います。

金光委員長 前回は、何を議論するか、議論する課題をどうやって見つけ出して、そしてそれをどうやって集約して決めていくかという形の話合いが主でした。だから、これとはまた少し違った観点での話し合いですから、議題の選定については、これから皆さん方にそれぞれ3分ぐらいでお話ししていただきます。それをベースにしてコンサルタントの人に、もう1回、どういう話題が出たかきれいに集約してもらって、それを大きな項目、小項目に分けて、どういう議題になるか再度調整して決めていくというスケジュール、ステップを踏んでいきたいと思っています。

上野委員 わかりました。どうも済みませんでした。

白井委員 おくれて来て大変申しわけないのですけれども、この会議自体の組織云々というのは、これはこれでいいのかなと。ただ、課題を見出してそれを常に絞り込むというスタイルがあったので、それはここで、いいのかどうかというのはもう少し整理をしたほうがいいかなと申し上げて、そこから先の処理の仕方とか、課題は20人だったら20人と、もっと多いかもしれない。その辺を整理して2つにするということが前提

ではなくて、そういう処理の仕方を少し整理すれば、例えば極端な話、全部の課題を、これは第1段階でこれで提言まで行きますねとか、これはもう少し深めたほうがいいですねとかという見極めをして整理していったらどうかと。多分、会議のあり方はそういう方向じゃないかと。

委員長もご存じのように、市民の会とかは、自分たちがそれを持って、少し深めて、かなり調査も自分でしてというところまでやりましたけれども、そうすると、限られた課題にしか対応できないと思いますので、恐らくそうじゃなくて、短期間である種の方向性をつけて幾つかに分けて、もっと深めるものと、かなり早い段階で、大まかかもしれないけれども提言まで持っていけるようなものと、それを提言しておいて検証したほうがいいのかと、そういう言い方をしたので、その先の話だと思います。組織そのものはこの規約でやれるかなと思います。

金光委員長 今、白井委員は、これから我々がやっていかなければいけないことを言われたので、今この場でどうのこうのということではなくて、今の場合は、この会の運営のことについて審議していただいて、これでよければ、皆さん方にご了承していただいたという形にしたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

岡倉委員 前回の勉強会のときに、2つの部会で分かれてやりましたと言われましたね。そうしますと、これを読みますと、専門部会というのは、課題検討専門部会と企画部会の2種類とすると書いてあるのですが、これとは違うということですか。

金光委員長 前は、課題検討部会というのが2つに分かれたということです。AとBに分かれて議論する部会と企画部会がある、3つの部会が立ち上がって進行したということです。そして、AとBの審議している部会の調整と全体会議の調整を企画部会が中心になってやったという、役割の上で運営していったということです。

今年もやっぱりそういう形になろうと思いますけれども、どういう議題があって、2つになるのか3つになるのかはこれからの問題ですから、これからそういうものを皆さん方が出した上で、どういう形で検討していきたいかというのはこの場で皆さん方が決めていただければいいことなので、それが2つになるのか3つになるのか、1つでやっていくのかということになろうかと思います。これはこれからの話し合いで決めていくということになります。

菅野委員 要するに、課題を検討する会と企画会があるということでもいいんですね。

金光委員長 そういうことです。

菅野委員 企画を検討する会というのが2つになるのか、1つで、全体でいつまでやっていくのか、3つになるのか。ここには専門部会と企画部会と2種類、種類となっていますね。2つというのではなくて2種類となっていますから、この種類とこの種類となっていますから、それでいいのではないのでしょうか。

岡倉委員 すみません、確認したかっただけなので。

金光委員長 よろしいですか、ご理解いただけましたか。

それでは、これでご了承いただいたということでよろしいですね。——では、本件については了承、確認したということにしたいと思います。ありがとうございました。

### (3) 副委員長の選出について

金光委員長 その次の議題として、副委員長を2名選出する形になっていますが、これについて事務局から説明をしていただければと思います。よろしくをお願いします。

事務局 副委員長の選出につきましては、先ほど承認していただいた運営要領に基づき、委員の互選で2名選出していただくようになります。

それでは、委員長、審議をお願いいたします。

金光委員長 副委員長をぜひやりたいと思われる方は立候補してください。もしくは、どなたか副委員長になっていただきたいということで推薦される方はいらっしゃいますか。ぜひこの人だったら副委員長をやっていただきたいという方は。

岡倉委員 副委員長は忙しいですか。忙しいなら、私がやります。もしよろしければ、よろしくをお願いいたします。

[ 拍手 ]

金光委員長 では、1人決まりました。

もう1人、どなたかぜひやっていただけるという方はいらっしゃいませんか。できれば、議事を経験されていて、今後、私がかもたもたしたときに相談できるということでは、過去の経験者に1人入っていただいたほうがいいかなと。できれば、菅野さん、どうでしょうか。

[ 拍手 ]

菅野委員 もう少し議論してください。

金光委員長 今までの参加されてきた意見の言い方、発表の仕方を見て、やはり菅野さんにご協力いただければなと思うのですが、よろしいですか。

植木委員 よろしいのではないですか、時間がもったいない。

金光委員長 すみません、そういうことで、では、お2人に副委員長になっていただくということで、よろしくをお願いいたします。

[ 副委員長 着席 ]

それでは、副委員長も決まりましたので、お2人に簡単にご挨拶をお願いしたいと思います。では最初に、岡倉さんから。

岡倉副委員長 突然申しわけありません。私は、5月まで仕事をしていまして、6月から暇になり、今、ボランティアを探そうと思って、この間はボランティアの基礎講座に、今週はどこか向こうのほうの大学で専門講座というのがあると聞きまして、それ

を受けてということで、いろいろやってみたいと思っています。

しかしながら、ここで副委員長ということで立候補してしまいましたので、こちらのほうを一生懸命やりますので、ひとつよろしくお願いします。(拍手)

菅野副委員長 岡倉さんは時間があるからということだったのですが、私は、あなたは忙しくなるから今度は外すよと前の委員長さんから言われていたので、今度、こんなところまで座ることになって大変申しわけないですけれども、金光委員長の足を引っ張らないように頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。(拍手)

#### (4) 第5期麻生区区民会議における調査・審議課題の検討について

金光委員長 どうもありがとうございます。

それでは、時間もかなり進んでいますので、次の議題に移りたいと思います。

次は、課題の選定に入る形になるわけですけれども、第5期麻生区区民会議における調査・審議課題の検討についてということで、それぞれの方々にこれから大体3分ぐらいで、こういう問題をやりたいということをかいつまんで簡単に話していただければと思います。

事務局 意見をもらう前に、先日、勉強会で課題の決め方についてご質問がありましたので、担当のほうから補足説明をさせていただきたいので、よろしくお願ひいたします。

事務局 資料4、平成24年度区民会議交流会市長講話をごらんください。7区の区民会議の委員が集まったときに、阿部前市長が区民会議について講話がありました。今回初めての方もいらっしゃると思いますので、これを新しい資料としてお出ししたのでごらんいただきたいのと、当面の課題を決めていくということなので、そこに関係するところを紹介させていただきます。

9ページをごらんください。地方分権改革における区民会議の役割ということで、パワーポイントのスライドがあります。区役所が果たすべき役割がさらに重要になってくるとということと、区民会議は、区における市民本位のまちづくりの中核的仕組みとなっています。そのスライドの下のところの説明の文章があり、一番下の段落で、市民本位のまちづくりの手段となる区民会議の意義が書かれています。先日の勉強会の際に、ある程度課題が整理されているので行政から提示すべきだという話と、委員のほうで出すべきだという意見があって、それに関連します。最初のポチのところで「委員の皆さんにも御尽力いただき、区民の皆さんが自らの地域社会を自らが考えるような姿に持っていく努力をしていただきたい。そのために、皆さんのこれまでの色々な経験や知識をぜひ使っていただきたいと思う。これからの社会は、さらに少子高齢化が進み、より地域の問題が大きくなる。今だけの問題ではなく、その時にも対応できるような自分たちのまちづくりを進めていただきたい」ということで、将来

的な課題も含めまして、みずから考えるような形に持って行っていただきたいというのが前市長のメッセージとしてありました。

その次に、参考資料1として、調査・審議課題の選定基準ということで、これから委員の方に3分以内で意見を言っていただき、それらを踏まえて課題を決定していきますが、そのときに気をつけていただきたいことがあります。3番の公平性のところで、特定の地域、グループ、個人の利益に偏ることなく、多くの区民にかかわる課題かということで、どうしても何かの団体に関係していると、その団体を中心に考えてしまいますが、より多くの区民にかかわるかどうか、5番及び6番の協働や区民の主体性につながるかどうかということも念頭に置いて意見を言っていただければと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

金光委員長 ありがとうございます。今、事務局から説明がありました点を十分留意して、これから皆さん方にそれぞれ意見を述べていただければと思いますので、ひとつよろしくお願いします。

それでは、吉垣さんのほうから。

吉垣委員 この間、用事がありまして勉強会に参加していませんので、私の話は少しちぐはぐになるかもしれません。申しわけないです。

私としては、今、3番の公平性について4月の子育てフェスタのときに私たちは受付のお手伝いをしたのですが、次回はいつなんですかとかと聞かれたりしました。各地域では、子育て関連のことをやっていると思うのですが、麻生区が1つになって大きな行事を、子育てフェスタみたいな感じでやっていただければ、子どもたちもこの役所に足を運んでいただけるのかなと思ったりしました。あと、少し気になったのが、保育園の先生たちがブースを持っていたのですが、子どもたちは意外と保育園の先生目当てに、〇〇の先生はどこかという感じで来ていたので、もっと幅広く周知できればなと思ったりもしました。

あと、危機管理について、麻生区に中学校は8中学校ありますので、もし災害があったときに中学生が一番地域で力になるのではないのかなとすごく思い、できれば中学校を巻き込んだ防災みたいな感じのものがあればいいなと思っております。中学生は3年間で卒業しますが、それが定着するような感じでできればなと思っております。

あと、中学生が地域に戻ったときに、あそこのおじいちゃん、おばあちゃんがいるよね、じゃ何かあったときに来るねとか、そういう繋がりがあれば、麻生区がすごく高齢社会になっても力強くなるのではないのかなと思っております。

すみません、とりとめのない話だったのですが、3分ないと思います。以上です。

山田委員 私は、最初に区長からお話がありましたように、少子高齢化が非常に進んでい

て、これからますます進行していくと。麻生区の場合、表面上、若々しいイメージがあるのですが、実際は7区の中でたしか2番目か3番目に高齢化が進んでいます。そういうことも踏まえて、これからも活力を持った地域であるためには子どもの力というものが非常に大きいと思います。そういう意味で、地域全体で子どもを支援するような事業を何かもっと考えていったらいいのではないかと思います。

行政のほうでも伺いますと、こども支援室を中心に、今までは保育、それから、どうしても小学校あたりまでだったのを、児童まで。児童というのは、児童福祉法で18歳までが全部児童になります。だから、もう少し中学校、高校にも広げて子どもを支援して、若者づくりを地域でやっていくということに注力していったらいいのではないかと思います。そういう意味で、ぜひ地域のネットワーク強化の一環としてそういうテーマをやっていけたらと思っています。以上です。

宮本委員 先ほど自己紹介したように、自分がたまたま障害者の団体に長く属していて、それで社協の在宅福祉部会とか、どちらかというとなら福祉絡みのボランティア的活動が多かったもので、高齢者を含んだ障害者をテーマにすることが果たして麻生住民17万人の中の公平性に当たるのかどうか、今はたと考えてしまったのですが、私としては、自分の今までの知識が非常に狭いもので、法律的な法制上の整備はいろいろされてきているのですが、こういう生活弱者に対する、周り、私たちを含めた社会一般の人たちの理解というか、特別扱いをするわけではなくて、一般的な生活ができるような町にしたい、そういう気持ちはいつも変わらないものですから、私のテーマはどうしてもそういう形で、福祉関係になります。

どういう提案をするかというのは具体的に詰めたわけではありませんが、例えば、警察とか、一般消費者にかかわる業種の方たちにそういう人たちがどういう人なのかを知ってもらうということが、地道だけど常に重要な課題になっております。

それから、そういう人たちというのは、身体障害の人も特にそうですけれども、やはり外に出るチャンスが非常に少ないです。ボランティアさん、ヘルパーさんという制度はいろいろありますが、そういうものを区なら区として外に出す、例えば一日バス旅行にするとか、そういうお膳立てが何かできるといいなと思っています。

あと、最近のテーマで一番大事なのは、やはり災害のときのそういう人たちの見守りです。でも、見守りというのは、その人が本当にヘルプを要求しているかどうか判断するのは個人情報のできるまでなかなか難しいと。そういうものを何とかうまくいくぐり、区として、二次避難所をつくって、そういう人たちはそのままそこに直行できるとか、そういう救いの手を確立してもらいたい。そういうことを今後訴えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

林委員 自己紹介でも申し上げましたように、環境活動を中心に麻生区の中で展開してまいりました。今日の自己紹介の中では、やはり食の安全ということが私の中の一番の

メインテーマなんですけど、地域とか国産の信頼できる食品の安全を守ることというのは、私たち1人1人の消費者が未来の子どもたちによりよい環境を残すことで実現できるのではないかと考えて、環境活動と申し上げました。

環境に関する活動というのは、これまでの活動の歴史を見てみますと、ごみの問題や自然エネルギーの問題とか、地産地消も含めて様々な団体がチャレンジし、こちらの区民会議のテーマにもなってきましたけれど、今まで出ておりました子育て世代というふうに考えますと、常に後から後から子育て世代が育ってきます。だから、環境の問題というのは常に常に働きかけていくことが大事なので、総合的に環境問題を働きかけていくことはすごく重要なことだなと思っております。

あと、個人的には、地域の中で自宅開放を居場所としてやろうかなと思っておりまして、去年は、1月に1回ですが、地域にチラシをまいて自宅開放をやっています。高齢者も含めた地域の人たちの居場所づくりということにチャレンジしておりますが、これはなかなか定着しないのです。どうしても閉じこもりがちな高齢者の方々に外に出てほしいという思いがあり、そののところをもう一步踏み込んで地域のために何かできたらいいなと考えておりますが、こちらは試行錯誤の状態、そちらのほうも区民会議の中で何かいいお知恵があればぜひとも参加して、皆さんとともに活動したいと考えております。

高橋（慶）委員 第4期における若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会、今年度4月13日に開催された第1回「あさお子育てフェスタ」では、区民待望の開催となり、親子2500人の来場があり、大成功のうちに終わりました。来場者のアンケートでは、94.3%の方がフェスタの継続を希望され、区のほうに提言されております。

私といたしましては、第5回審議課題の提案につきまして、子育てするなら麻生区で、安心、楽しい、助かるのテーマの助かるに視点を置いた、ママが助かるをキーワードで、育じい、育ばあ、赤ちゃんサポーター養成講座の開講を提案したいと思います。一応赤ちゃんですから、ゼロから1歳の乳幼児、ママが1時間から3時間程度のお買い物、病院、銀行、区役所等のお出かけ等のときに、地域の中で気軽に信頼のある地域の方ということでお頼みできる、そういうサポーター養成講座ということになります。

人材の資質につきましては、現在、麻生区の人口は、先ほど区長がお話ししておりました17万5000人でしょうか、このうち65歳以上が3万5600人で、この数字は、7区のうちでは人口の比率で占める割合が多いと聞いております。また、先ほども区長がお話ししておりましたけれども、麻生区は高齢者の住民の定住率も高いと聞いております。単身、そして我が地域にも65歳以上の高齢者の2人家族も多いと実感しております。娘の出産の里帰り、また、地域に居住しているママのサポートに、65歳の年代は団塊の世代で、仕事中心の人が多く、若いときにできなかった子育てを講座で学

び、赤ちゃんの抱き方、おむつの取りかえ、ミルクのつくり方、あやし方等を実習してもらい、それからまた、子どもを育てる——今、30年、40年たちますと、若いママの考え方も大分違ってきておりますので、そういう講座を聞いて、修了書を手にしていただき、地域、近隣の中で活躍していただけるシステムづくりを提案したいと思います。以上です。

高橋（克）委員 和光大学から代表で来ておりますので、大学の知見を使えるようなものということで、先週、宿題にされてから少し考えたのですが、どうしても飛び地の岡上町内会とか岡上西町会と隣接しているために、麻生区全体ということになりますとなかなか難しいかなと思っております。前回いただいた資料などを拝見しまして、大学でやっていることで何か協力できることはないかなと思ってきました。今、委員の皆様からご紹介がありました子育てフェスタということで、地域で子どもを育てるということは、大学のほうでもそういう学科や研究している教員がおりますので、何か専門的な知見をご紹介できるかなと思っております。あと、先ほど障害者、生活弱者に優しい町ということでご提案がありましたけれども、こちらのほうもマイノリティーとかを研究している教員が多数おりますので、何かご協力できるかなと思っています。

どうしても岡上はローカルな話になってしまって、うまい案がなかなか出てこなかったのですが、ここで話し合っ、何か協力できることがあれば一緒に考えていきたいかなと思っております。以上です。

高倉委員 自己紹介で公募委員と申し上げました。応募はいたしましたけれども、これから何をやっていくか具体的などころまでは詰めていないというところが正直な気持ちです。そういったことをございますけれども、一応公募の動機みたいな部分に沿ってお話しさせていただきたいと思ひます。そういうことでお聞きください。

まずは、私の問題意識というか、認識ということで具体的にお話しさせていただきます。第1点は、先ほどの区長さんのお話とも関係がありますが、麻生区は横浜の青葉区とともに全国でも長生きの行政単位でございます。反面、麻生区は川崎市内でも65歳以上の高齢者の占める割合が非常に高いということが問題意識の第1点でございます。

視点の2点目といたしましては、これも自己紹介で紹介いたしましたけれども、麻生市民交流館やまゆりでボランティアをやらせていただいているのですが、今日の参考資料5にも書いてありますけれども、実はあそこの登録団体が600を超しているということで、市民活動の活発さというのを私は肌で感じております。特にシニア世代が非常によく市民活動をやられているということをボランティア先で感じています。それから、さらに4期の区民会議で区民会議フォーラムというのを開催いたしましたけれども、これには約150名の区民の方が参加され、その8割以上が実は60歳以上だとい

うことで、これは何が言いたいかという、シニア世代が非常に活発だなということを感じております。

視点の第3といたしましては、今期はどのように扱われるかわかりませんが、これまでの区民会議の大テーマ、お手元の第4期の報告書の表紙にもありますけれども、「人と人と心をつなぐ地域づくり」ということで今までやってきましたけれども、私は今期もこれでいいのではないかと考えています。

そういう前提で考えますと、つまりこれは豊かなまちづくりだなということで、さらに自分勝手な解釈をいたしますと、やはりそのベースは安全安心のまちづくり、これがあるから豊かなまちづくり、人と人と心をつなぐ地域づくりができると思います。安全安心の分野にはいろんな分野がございますので、これから検討していくということで余りこだわりは持っておりませんが、例えば、自然災害対応ということであれば、麻生区は、幸いなことですが、地理的、地勢的な条件から風水害にはなかなか遭わないと考えられますので、やはり地震への備えかなということになります。

実は、前回の勉強会でご説明いたしました第4期の安全・安心部会で家具転倒防止対策の取り組みをお話しいたしましたけれども、あれとは言いませぬので、ああいった形でまた何かができればいいかなというのが希望でございます。

以上のようなことからまとめますと、シニア世代を中心とする防災対応みたいな部分、もしくは地域課題解決対応等をテーマにできればいいかと考えております。以上です。

白井委員 先ほど紹介しましたように、まちづくりという視点から少し考えてみたところがあります。委員長、メモ程度につくってきたものがあるのですが、配ってもよろしいですか。多分数が足りないと思うので、2人に1枚ずつで。

中身は少し大きい話をしているのかもしれないのですが、何を申し上げたいかという、流れとして、どういう形で取り組んだらいいかということで前回も申し上げました。ここで全部のことをかなり細かく深く掘り下げてはなかなか難しいだろうと、ある程度の段階で、やっていく実体というか、組織とかについてはまたその後の検討という形になろうかと思いますが、まず1つ、この中で考えていますのは、町会とか自治会の再編による地域活動の充実、強化ということで、私も町会の関係をしているものですから、金光さんも、高橋さんも非常にご苦労されて、今までもいろいろやられていたと思います。麻生区内は十数軒からの町会と、3000軒近いような町会とばらばらにあるということで、内容を、生活圏の範囲ぐらい、例えば300とか500ぐらいで全体を再編するというようなことで、ある程度の基準的な運営ルールですとか防犯、防災への対応が可能になってくるのではないかとということで、予想される効果とか中身については、私もそんなに詰めて話をしていませんので、これからさらに詰めない

いろいろなものが埋まってこないかと思うのですが、ある種、テーマにして、それから背景を考えて、調査、審議をして方針を出す。それから、予想される効果ぐらいまでをここで考えられればいいのかなど。その先の実行、実現化の検証については今後の取り組みということでまとめてみました。

それからもう1つ、i（あい）バスというのが稲城にありますけれども、それをAi（愛）バスにして、麻生区と稲城でもいいのですが、バスを区内で巡回させる。これは、高齢化に伴う移動手段が確保できていない、それから傾斜地が相当多いですから、その辺の対応を今後どうするのかと。それから、住宅の細街路、細かいところまである程度こういうものが動いていると防犯上の問題にも今後いろいろ寄与できるのではないかとということで、こういった問題を今後考えてはどうかということです。

もう1つ、送迎の自家用車の提言ということで、駅周辺の混雑をどうしていくかという問題もあろうかと思えます。

もう1つは、かなり大きな話ですが、大きな話を全部解決しようということではなくて、この辺を少し土俵に上げてどこかで議論する場面をつくってもらいたいという提言をしていったらどうかということです。ご存じのように、横浜市営地下鉄は3号線延伸がかなり現実味を帯びてきつつあるということもあり、区役所周辺の建物の老朽化とか、周辺道路の整備とかいろいろあると思います。これを全部解決するというのではなくて、この辺を今後どう取り組んでいくかということをし少し考えていったらいい。ここで解決するというよりも、解決の場をどこに委ねたらいいかというところの提言まではできるのではないかと内容でございます。

志村委員 白井さんのような活発な意見は何もございません。私も先ほど、自分の気になっているところというので、緑が相続によってどんどん減っていくので、グリーンベルトの活用法がもっとあれば、町の景観も変わらないし、ふるさとの場所が残せるのではないかなという浅はかな考えが1つありました。それで自己紹介のときに挨拶させていただきました。

あと1つは、これだけ子どもがたくさんいる学園都市の麻生区ですが、子どもたちが買い物をするような場所が少ないのが少し気になります。学園都市である麻生区の子どもたちはここを通過するだけで、住んでいる人も少ないのかもしれませんが、休日も何かどこかほかに行っているのかなと。小さいお店でもいいけれども、子どもたちが関心を持つようなお店がもう少し増えてくれればよいなと思っています。以上です。

小尾委員 私は、ボランティアとして、今、食生活改善推進員に携わっておりまして、その経験から3つのことを話させていただきたいと思えます。1つは親子クッキング教室、2つ目は食品添加物の問題、3つ目は買い物のし過ぎの問題です。

1つ目の親子クッキング教室ですが、先日、健康づくりで親子クッキング教室を行

いましたけれども、小学校1、2年生を対象にしましたところ、30名の募集を大きく上回らして71名の申し込みがありました。先月は、夏休みの親子クッキング教室を年長さんから小学生の低学年を対象に行いましたら、たくさんの方に参加していただきまして、ほとんどの方から来年もぜひ参加したいという意見、ご要望をいただきました。親子で仲よくお料理をする姿を見ているのは大変いいものだと思います。こういう食育、いわゆる食を育てるということは、食育推進計画によって親子の食育等の行事で行われておりますが、「あさお子育てフェスタ」の中にも、こういう親子クッキング教室を取り入れて実施したらいかかと思いました。

私は、来年は継続ということで「あさお子育てフェスタ」を推進したいと思います。現在、麻生区の白鳥中学校では、食生活改善推進員が中心となりまして、350グラムの野菜を計量したり、何を食べたらいいか、お野菜が足りないよという食育について学ぶ機会を持っていますので、このような活動を幅広く各学校にもしていただきたいと思っております。

もう1つ、食品添加物の問題ですが、私は消費生活モニターを昨年やりまして、そのときにいろいろお話を伺ったのですが、日本で使用されている食品添加物は1500種類あるうち、このうち800種類については健康面で何らかのリスクがある可能性があるというお話を伺いました。また、アメリカの上院が作成した資料によりますと、食品添加物や農薬、その他の化学物質が子どもの脳と心の正常な発達を妨げると報告されています。さらに、イギリスの食品基準庁によりますと、子どもの注意欠陥や多動性障害が6種類の合成着色料と関連している可能性がある。日本では、この6種類のうち4種類がまだ使用されていますが、この4種類につきましては何の規制もなく普通に使われている状態です。今後、TPP交渉が締結されますと、輸入食品はいろいろなものが入ってきますので、さらに重要になると思います。以上です。

上野委員 私自身としては、公募のときに掲げられていた麻生区のテーマであれば何でもやりたいと思います。テーマは何でも構わないと思うのですが、やるということを重きに置きたいなと思います。ただ提案する、企画するだけではなくて、実行したい。それも、2年も時間をかけてやるよりも、短く3カ月あるいは6カ月で幾つものテーマをやれるとおもしろいかなと思いました。これだけ各団体の代表の方がいらっしゃるんで、いろんなことがやれるのではないかなと思います。実際にやることによって自分自身も学びたいと思うし、地域に何か還元できることがあればいいなと考えております。

植木委員 私は、区民会議は第3期のときに公募委員として参加させていただきました。そのときに、こういう場でお話ししたのは、諸先輩を含めて麻生区の課題というのは既に出尽くしているのではないだろうかというようなこととお話ししました。そこで、何が大切かという、誰がという視点が必要ではないかということを実はお話し

して、担い手をどうつくるかという観点をぜひ区民会議として取り上げるべきではないかというお話をいたしました。ところが、あのとき東北の大震災という問題が起きまして、どちらかという、そちらの方向に審議がシフトしまして、実はそのときの審議テーマにはなりません。そのようなことで非常に残念に思ったわけですが、26年度に中山副区長を委員長として、そこら辺の人材をどう生み出すかというような委員会がスタートすることになりまして、実は大変うれしく思っておりますし、言い出しっぺの一員として大変責任を感じているというのが現状でございます。

そういう中で、今期はどのような立場で私は参加したいのかといいますと、立場として、やまゆりの代表として参加しておりますので、皆さんのいろんな課題を解決するに当たって、やまゆりがどのようにしてお役に立てるかという視点と、もう1つは、いろんな皆さんの意見を通じて、やまゆりが主体となってやるべきことがそこに何かあるのではないかと、また、それを実際に遂行していきたいというような思いでこの活動に参加いたしております。

いずれにいたしましても、誰がという視点を置かないと、単に議論だけ上滑りしてしまうのではないかとこのことを大変恐れておりますので、ぜひ金光委員長にはそこら辺の視点を大切に議事運営をしていただければなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上です。

石川委員 1期から4期の会議録を見せていただきまして、その中で、ことしもやはり人と人をつなぐ地域づくり、その中に、4期のときは若者が楽しく住めるという形でしたけれども、ことしは高齢者が輝ける地域づくり、特にその中では健康づくり、そのもっと奥にはひきこもりの高齢者をどうやって外に出すか、それから、もちろん高齢者にとって食生活が非常に大切ですので、特に麻生区は岡上とか黒川とか、農産物のたくさんできる場所がありますので、農産物を利用して、できる限りいろんな食生活に関するところの方をお呼びして、レシピをつくって全家庭に配布する。それから、もちろん1期から3期までに行われてきた、特に4期で子育てフェスタが非常に良かったということがあったようではございますけれども、それをぜひまた5期でも引き続いて、1回、2回、3回と、さらに4回、5回という形でどんどん引き続けていけたらいいと思います。

石井(よ)委員 今、皆さんのお話を聞いていて本当に勉強になりました。ありがとうございました。私も前回の勉強会から、地域課題解決に向けてということでいろいろ考えようとしたんですが、区民会議では、参加と協働による課題解決に向けた調査審議ということになっておりましたので、そこら辺のことも具体的にはどういうことを指すのかなというのをこれからおいおい勉強させていただければと存じます。

あと、区の課題に関しましては、前回もらいました「麻生区の現状と課題に関する資料」というのがありましたので読ませさせていただきました。これだけコンパクトにまとめられる力量は、やっぱり行政マンというのは、多分数年しか区にはいないのだろうと思いますけれども、何十年もお住まいのようなまとめ方をしている、さすがだなと思います。そういう区のプロ的な職員と一緒に協働できるというのも区民会議のメリットかなとも思っています。

その中で、麻生区の現状と主な課題というのが6項目挙げられておりまして、では、これが実際どういうふうな市民活動あるいは行政の事業で今動いているのかと、そこをまず知りたいなと思いました。その上で私たちは、区民会議の課題というのは、市民館の市民自主企画事業とか、自主学級とか、あるいは区役所の地域課題提案事業とか、いろいろあると思いますけれども、それとはまたちょっと違う方法をやっていたほうがいいのではないかと思います。

その上で、どんな課題であれ、何か決まったら、いろんなことはその方向に向かってやっていきたいと思っています。例えば、子育てに関しましては、私がまちづくり、あるいは地域づくりに関心を持ったきっかけはこの町で子どもを身ごもり、育てたということが自分の原点でございますので、かれこれ30年近くになりますけれども、子どもの心を育む町、あるいは子どもが誇りに思う町にしたいと思いつけているところでございます。

石井（郁）委員 先ほども自己紹介させていただきましたけれども、NPOの「しんゆり・芸術のまちづくり」として、3期、4期に参加させていただきました。3期のときは、植木さんと同じ地域交流・文化部会ということで、高齢者の問題と文化の問題を並列して議論してきました。そこでまた文化のところの提言も出してきました。4期については、若者が住みたくなるということで、麻生区の特徴として芸術文化があるのではないかと、また、子育てに生かせるのではないかとということで、子育て世代が楽しめるという観点で情報発信の提言をさせていただきましたけれども、実際、NPOで我々が活動しているのは、限られた分野の芸術関係の関係者しか正直交流がなかったのですけれども、3期のときに高齢者の施設、あるいはいろんな方々とお会いさせていただいて、もっと音楽とか芸術とかが生かせる分野があるのではないかとすることは強く感じていました。

特に子育てフェスタをやったときも、和光大学さんに入っていたいたのですけれども、麻生区にはいろんなところに資源があるのではないかと思いますので、新百合だけじゃなくて、新百合は駅の名前で、やはり麻生区は芸術の町というのが1つの特徴となって生かされていくような情報発信等をぜひ課題として取り組んでいきたいと思つています。特に3期のときにいろんな実行委員会をヒアリングさせていただきましたけれども、事務局の高齢化とか、予算がないとかということが結構出ていました。今

回もその辺の横の連携とかがかなりありましたので、文化芸術だけではなくて、そういう情報発信と収集等を高齢者あるいは子育てにも生かせるような形で、麻生区の特徴として生かされていくような何か提言に結びつけられればなと思います。以上です。

岡倉副委員長 私は、公募ということで、特に地域活動をとということでの課題についてはお話しできないのですが、言われたあたりでいろいろ考えてみまして、2つほど、こういうことについて議論、調査できたらいいなと思っております。

まずその1つが、先ほど白井委員が言われた地下鉄3号線の延伸のことについては、本当に麻生区のテーマとして、麻生区だけと言うのは変ですけれども、麻生区特有の問題だと思しますので、この件に関して、今、区民の方はどういうふうに思っているのか非常に知りたいということと、ではこのことでどういう影響があるのだろうかということとか、先ほど言われた議論の場所があるといいねという話は、すごく将来的な話なのですけれども、麻生区特有の課題としてこういうところで取り上げることができるのかなと思っております。

もう1つが、この2カ月でいろいろ調べましたが、先ほど高倉委員が言われましたボランティアの活動がすごく活発になっている、それは私も非常に感じました。そういう中で、市民館とか図書館とかを見ますとチラシがいっぱいあって、こんなにチラシがいっぱいあっていいのだろうかということ、情報を発信する方法について1回この場で整理をしてみる。うちのほうはまだ田舎なのか、市民広報板があって、そこに何かやりますよと張ったり、町内会でも掲示板があったりしますので、何かその辺を少し整理ができるというか、そういうことについて議論ができればまた皆さんの共通の話題になるなと考えております。以上でございます。

菅野副委員長 昨年までの第4期で、若者が住みたくなくなるという、この若者の定義をいろいろ話し合ったときに、若者というのは、赤ちゃんのときから、どちらかというところだったのかなと思えますけれども、その中で、若いお母さんたち、お父さんたち、いわゆる小さいお子さんたちを持っている若い人たちにターゲットを絞ったという形です。

それによって子育てフェスティバルまで行ったわけですがけれども、あの当時私なんかは、もう1つ年上の小学生の子どもたちは今この地域で一体どういうありようになっているのか、どういう育ち方をしているのかという問題もあり、そこまではちょっと行けないなど。

私は、子どもたちの居場所というものをもっと考えていく必要があるのではないかと今思っています。私の感じていること、あるいは、実際に私もボーイスカウトのリーダーなんかをやっていると考えてきて、子どもたちの遊び場がないのですが、公園はいっぱいあります。それから緑もいっぱいあって、静かでいい。市民が麻生区を大変

いいと言うところは、公園がある、静かでいいということです。しかし、小学生ぐらいのやんちゃな子どもたちが遊ぶ場はないのです。ボールを蹴れるところやキャッチボールをやるところがなく、どこか遠くまで行かないといけないのです。ですから、階段のところあたりに子どもたちが群がってゲームをしている。その辺のところをもう少し調べてみる必要があるのではないかと。

わくわくだとか、それから、最近市長さんが言っている寺小屋とか、子どもたちに対する仕掛けはいろいろしているのですけれども、そうではなく、お父さんが休みの日にちよいと出て行って遊ぶ場所がない。その辺のところをつくってみるというのはどうかと。ある地域にそういう場所をつくっていくことによってお父さんを動かすことができるのではないかと。お父さんを動かすと同時に、その地域をつくるということは、地域の人を動かさないといけない。地域の高齢者の協力も得なければいけない。小さい地域での小さい人の活動の場をつくるのが子どもを挟んでできるのではないかと。若いお父さんたちは、イベントに参加することはよくできるのですけれども、自分たちが動いて役割を果たすというのは、なかなか参加できないと私は思います。でも、そういう小さな場をつくることによって何か生まれてくるのではないかと、そんなことも考えています。以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。では最後に、私からも一言意見を言わせていただきたいと思います。

もう既に放送なんかで話題になったことなので、皆さん方はご存じだと思いますけれども、先般、全国知事会議がありまして、その席上で、元総務大臣だった増田さんが非常にショッキングな説明をされました。それは何かというと、全国に約1800ぐらいの自治体があるけれども、2040年までの間に689の自治体が消滅してしまうだろうという発表があったわけです。それは何かというと、生産年齢の女性の数が50%を切るというものです。今年を100にして、2040年のときには50%を切ってしまうという自治体が出てくる。そのところでは、結局少子化がさらに進んで老人ばかりの町になり、自治体としての活動ができなくなるだろうという想定のお話でございます。

確かにそういう事態になった場合に社会全体は活性化せず沈滞化して、いわゆる自治体そのものが動かなくなるという形が容易に想定できるわけですが、そういう事態が今後40年の間に起こるということです。そのデータを国立社会保障・人口問題研究所が発表されています。政令都市については区単位で発表されたということなので、実は、そのデータをちょっと調べてみました。麻生区については20歳から39歳までの女性が2040年のときには今に比べて59%になる。59%になるということは41%減るといことです。ということは、生産年齢は大幅に減って、65歳以上の老人人口が大幅にふえるということなんです。

この状況をそのまま放置しておいたらどうということが起きるかということ、介護の間

題も、若手が老人の面倒を見られなくなる。老人が老人の面倒を見るような社会構造になっていく。それから、自治体あるいは町会自身も役員をやる人がいなくなってしまう、高齢者で、もうそんな仕事はできないよという自治会が出現してくる。当然、若者がいなくなるわけですから、自分たちが死ぬとその家は空き家になるという形で、それぞれの町が崩壊状態になってくるという危険性が出てくるわけです。

40年、50年になると、日本の人口は、今は1億2000万ありますけれども、7900万人ぐらいに減ってくるというような状況で、国力が非常に衰えてくるということです。先ほど区長が麻生区は人口がふえているということで、確かに今年は人口がふえています。でも、全体で言うと1.9%ぐらいしかふえていないんです。それを今のブロック単位で見ると、4つのブロックで若者がマイナスになってしまっているという事態が起きています。それで、生産するいわゆる20歳から64歳までの人口は2040年までの間にかなり減ってくるわけです。それで、65歳以上の老人が約倍ぐらいにふえるという人口構造になります。ということは、私は何を言いたいかというと、今、本当に少子化という問題を真剣に捉えてどうするのか考えていかないと、麻生区も同じような憂き目に遭うでしょうということです。先般、発表になったときに豊島区が消滅区に挙げられたということで、皆さん、池袋がそんなになるかということは想像もできなかったのですが、そういうことが出てきたわけです。

これからは、我々も前回、若者が住みたくなるような魅力あるまちづくりということで、若者をどういうふうに麻生区の中に呼び込んでくるか、町をどういうふうに活性化していくかというのは、生産年齢の若い人たちがどんどん入り込んでくるような町にしていかないと、いろんな施策をやっても町は活性化されないわけです。

確かに区は、あるいは国は、エンゼルプランだとか、あるいは少子化対策という形でかなりの対策を講じてきましたけれども、その少子化の流れは全然とまっていないのです。結局そういう形でやった施策というのは余り生きてこなかった。そういう意味合いでは、市民の目から見て、これから本当に少子化を食い止めていくにはどういう形のことが必要なのだろうということは、やっぱり我々自身が検討してみる必要があるのではないか。これは役所や国任せではなくて、市民レベルの中でそういうことを考えて、子どもが育てやすいような環境、そういう町とはどういうことなのか、あるいは多世代の人たちがお互いに協力し合うような、共生し合うような町というのはどういう町なんだろうかということを検討し合うことがこれからは必要になってくるのではないかなと思っているわけです。そういう意味合いで、4期続けた若者が住みたくなるような魅力のあるまちづくりというものも、もしかしたら今期も継承してやっていきたいと考えているのですが、これはまた皆さん方とのいろいろな議論の上で決めていければということです。以上でございます。

植木委員 区民会議の基本的なあり方についてちょっとお話をしたいのですが、第3期の

ときに、2期の区民会議のメンバーは、子どもたちの絵を道路に飾るということをや  
って、大変いいねということになりました。それを第3期でもやろうじゃないかとい  
う話が出たときに、区民会議というのは起爆剤であって、それを区民会議がずっと続  
けていくということであれば、区民会議の本来的な意義とはちょっと違うのではない  
でしょうか、そういう議論がありまして、それは菅野委員のほうの文化協会にその議  
論を投げて今も続けていただいているという状況がございます。

ですから、今回、子どもフェスタは大変よかったと思うのでございますけれども、  
それを区民会議がまた今期も続けて主体となってやる、そうしたら来年はどうする  
の、継続してやることに意義があるのであれば、そこら辺について議論をしていかな  
いと、テーマの設定ということについてちょっと問題があるのではないかなど。区民  
会議の基本的なあり方として、いつまで実務を区民会議として担っていくか、そこら  
辺についてどう考えているかということの問題提起したいです。

金光委員長 私は子育てフェスタのことを言っているのではなくて、若者が住みたくなる  
魅力あるまちづくりということは……。

植木委員 今、金光委員長が言ったお話について私は言っているのではなくて、今の皆さ  
んのそれぞれの意見の中で、子どもフェスタは非常によかったよと、ぜひ区民会議と  
して今期もやりたいねというお話が出ていましたから、そこら辺について問題提起を  
しているということです。

金光委員長 わかりました。それについては、4期のほうから、第1回子育てフェスタと  
いう形で、第1回というのを入れてうたったわけですけども、これはなかなか評判  
がよかったということで、実際は次にやるのは役所のほうへ預けるという形になっ  
て、役所がやるという段階になったときに、ではそれに対して区民会議の人たちが協  
力してくれるかどうかということについては、前回の協力した人たちは協力しますと  
いう形になっています。今後、区民会議としてあれをメインに取り上げてどうのこ  
うのということは我々も考えていません。

植木委員 ということは、今、各委員の方たちから、ぜひ今期でもそれを取り上げたい  
というお話がありましたけれども、基本的には行政のほうが主体となってやるという形  
で、テーマからは省く、そういう考え方でよろしいですか。

金光委員長 そういう話し合いになっていると思いますけれども、やりたいということ  
は、また全体がそういう話になれば話は別なので、それを私の考え方でできないとか  
できるということは言えません。ここで皆さん方が、全体の人がやっぱりやりたい  
ということであれば、それはしょうがないですね。全員の意見の中で進めなければいけ  
ないことなので、私も何とも言えません。

高橋（慶）委員 ただ、それは団体につなげていくということになっていますよね。

植木委員 そうでないと、区民会議がいつまでも主体となってやっても長続きしません

よ。

小尾委員 ただ、先ほど市長のお話の中で、繰り返しのお話になるが、区民会議の議題の選択については、前の期の人たちと違うことをやらなければならない、自分たちがやる意義がないとは考えずに、区全体にその課題解決の手法が広がるまで何度でも同じ課題を選択して、継続して取り組んでいただきたいと言われていまして、別に起爆剤になるとか、そういうことまで考えなくてもよろしいのではないかと思います、いかがでしょうか。

植木委員 それは反対です。

石井（郁）委員 4期のときにやったのは、モデル事業として取り上げました。それは情報発信、あるいは情報が欲しいという方と団体のつなぎという形でやりました。

ですから、先ほど金光委員長のお話もありましたけれども、では区民会議としてそれにどう協力していくか、あるいは子育てフェスタを継続していただける場合、こういう観点を付加してくださいとか、そういう提案はできると思います。ただ、あくまでもモデル事業でやりましたので、またここの中でもう1回モデル事業でやるんだというのであれば、またその議論で決められればいいことで、特にこれを継続してどうのということの観点でやったわけではないことはご説明しておきます。

白井委員 関連した話かもしれませんが、前回は今回も触れたのは、全部の課題についてどういう段階で仕切りをつけていくかということをやればいいのかと思います。

今のお話もそうですけれども、話の中でもう全くやめるというのではなくて、入れて、その中でどこまで深めるかということで、これはこういう形で処理できるというか、次の段階につなげられるねということはそれで整理をすればいいと思うし、まだそこまで検討ができていない部分についてはもう少し深めていけばいい話だと思います。そのやり方、ルールを決めたほうがいいのかということやずっと申し上げているので、多分植木委員もそういう話で、その段階で仕切りができればいいと思います。

ここでまた同じことをすると、次の問題は、区の中にはいっぱい課題があると思うが、それが多いか少ないかとかではなくて、課題については全てのことについて何らかのコメントを加えるのがこの使命だと私は思っています。皆さんがどう思われるかはあれですけれども。絞るということは、どういう形の絞り方かというのがあるかもしれないですけれども、絞ることを前提ではなくて、全てのことについてどういう仕切りで解決していく方向性をつけるかというのが多分区民会議の役割かなと私は考えております。

金光委員長 今日は、ここで皆さんにいろいろ言っていた意見を今ここでまとめていただきます。大体の形でグルーピングができていますけれども、それをベースにして、今後、議題を進めていきたいと思っておりますけれども、とりあえず集まった

ものについてコンサルのほうからご説明していただければと思いますので、よろしく  
お願いします。

社会空間研究所 では、振り返りも含めながら整理していきたいと思います。

まず、今も話に出ましたが、子どもフェスタが非常によかったというのが結構多く  
ありまして、これからも継続といった話も出されました。さらに、子どもフェスタを  
どういうふうに周知していくかという話も出されたところから引き続きますと、やは  
り地域での子育て支援とか、子育てのサポートの仕組みづくり、体制づくりといった  
ものが必要なのではないかという話が1つ出たかと思います。ただ、先ほど話に出た  
ことですが、子どもフェスタは本当によかったものの、区民会議としてどうするの  
か、やっていくというのであれば担い手はどうするのかと。恐らく区民会議の提言す  
る事業に全部かかわってくることだと思うのですが、区民会議の提言したものに對し  
てどういうふうの実現してくれるか、また実現する人を考えなければいけないかとい  
うことがあります。これはテーマというよりも、共通項として、区民会議で提言した  
ことの主体になる人ということも考えながらやっていかなければいけないというこ  
とが1つあるかと思います。

次に、地域の居場所づくりというのが出たかと思います。これは大きく固めてしま  
っていますが、高齢者の方が外に出やすいとか、いられる場所が必要なのではない  
か、あと、障害者の方も一般的な生活ができるように、障害者の方を地域でサポート  
できるようにということが出たかと思います。その後子どもという話も出ていまし  
た。やはり誰でも麻生区にいられる、そういう居場所づくり的なものが必要なの  
ではないかという意見が多かったかと思います。

あと、先ほど区長からの話にもありましたけれども、麻生区は高齢化が進んでおり  
まして、そこが結構キーになっているお話も出たかと思います。そういう意味で、少  
子化を考えて、どうやったら若い人が住めるようになるのか、住みやすいところとは  
どういうところなのか考えていく必要があるのではないかということで、若い人が住  
みやすいという意味から少子化を考えるということがあったかと思います。

それと、子育て世代に知ってほしいことということで、麻生区は緑が多いといった  
環境のことがありました。あと、食育という意味で、食べ物といったところが出たか  
と思います。今度は若い人に知ってほしいということがあるので、そういうものを発  
信できるようにということもありました。

それと、先ほどの子どもの居場所のところに戻ってしまうのですが、子どもの居場  
所のところのポイントがありまして、子どもの居場所をつくるだけではなくて、そう  
いうところを通じて、高齢者も若い人も巻き込んで子どもの居場所づくりをやったほ  
うがいいのではないかと。子どもの居場所づくりでいろんな人が来られるのではない  
かと、そこでコミュニティー的なものができるのではないかとといったところがありまし

て、子どもの居場所づくりがポイントになったかと思います。

そして、安全安心のまちづくりというのがありました。地震とか防犯の話になると思います。ただ、そのときに、ハード的にしっかりするのも大事ですが、やはり地域で見守る、地域で守る人が必要だということで、そういう担い手としまして、まず中学生に力を発揮してもらったらどうかということと、あと麻生区の特徴として、市民活動が活発で、それは60代以上の人結構多い、元気なシニアがたくさんいるので、シニアの人もいざというときにどんどん防災で活躍できるような仕組みをつくっていったらどうかというのがあったかと思います。

そういう意味で、地域のコミュニティー単位で防災とか安全とかに取り組んでいかなければいけないので、見やすい生活圏を考えた安全安心とはどういうものなのかという話につながるかと思います。それと、エリアで考えた安全安心と、あと、先ほども話しましたがけれども、担い手づくりということで、担い手には3つのキーワードが出たかと思います。シニア世代、それと中学生、あと、やまゆりがどのように地域に生かせるのか、麻生区に生かせるのかというのもテーマだという話も出されました。こういうところから、担い手、地域を支える人たちに、防災なり、そのほかのまちづくり活動とかにどういうふうに協力してもらえるかという仕組みづくりをやったらどうかというのがあったかと思います。

あと、地域のつながりの担い手になるだろう中学生とありましたけれども、子どものころから地域に関心を持てるような仕組みづくりをしていかなければいけないのではないかということも意見として出されたかと思います。

あとは、麻生区の資源が生かせるような形にならないか、いろんな課題解決をしていったらどうかという話がありまして、1つは、新百合ヶ丘は芸術の町ということで、これを生かして子育てとか高齢者の課題を解決できるのではないか、どういうふうに解決するかを考えたいという話もありました。それと、麻生区の特徴は市民活動が盛んだというところがありまして、これをもっと生かす、発信させるとか、どういう形でもっと生かせればいいのか検討するといった意見があったかと思います。

あと、高齢化に向けては、移動手段、交通網も考えたほうがいいのかという話もあったかと思います。

もう1つ、最後に、区の課題の取り組み状況を踏まえて、どういうことをテーマとしていくか考えていきたいという意見もあったかと思います。

そういう意味で、テーマどころとしては、子育てのサポートづくりとか、高齢者、障害者、子どもたちの居場所づくり、安全安心まちづくり、少子化を考える、あと、麻生の地域の資源を生かしていきたい、地下鉄の延伸に向けて話し合う場が欲しいといったようなことに大きく分けられるかと思ひまして、共通とすることは、やっぱり担い手づくりというか、どういう形で担い手をつくっていくか、どういうふうに参加

してもらるか、主体になってもらうかという仕組みも含めて考えるというのがキーかなと、皆さんの話を聞いていて思いました。そんな形ですけれども、以上でございます。

金光委員長 ありがとうございます。大きく分けると、6つぐらいに分かれますね。今、皆さん方の意見をこうやって集約すると、大きな項目で大体6つぐらいに分かれて、それぞれの項目をやるに当たって、担い手づくりをどうするかということに全部絡んでくるという形につながるのかなと思います。

これをどうするかということですが、第5期で決めるに当たって、次回、第1回企画部会を全員で開いて、グループのワーキング作業をしていただきます。テーマごとに分かれて、それぞれのグループの中でテーマをどういうふうに集約していくか話し合っ、どれを選定するか決めていきたいと考えているのですが、どうでしょうか。

当然、これに関連するいろんな統計資料とか、あるいはどういう対策がされてきたかというのは役所のほうから全部提出していただいて、それをベースにして検討を進めていくということです。優先順位を決めて、最終的にはどういう形で議論を進めるか皆さん方で話し合っ決めていこうという段取りで進めたいと思っておりますが、どうでしょうか。それで課題検討の部会が1つになるのか、2つになるのか決まるという流れになるんですが、今ここではどれを選定するかというのは、時間も時間ですから決められませんので、また新たに日を設けて、第1回の企画部会を開催して、その場で決めるという段取りにしたいと思っておりますが、どうですか。

菅野副委員長 1つは、お年寄りの問題にしても、子育ての問題にしても、ここに出されたいろいろなご意見が過去の区民会議等でどれだけ扱われて、どの程度の状況まで至っているのかというのがありますね。それだけではなくて、まちづくり部会とか防災とかあっちこっちで、この区民会議とは違うところでもいろいろな会議が行われて区に提言されていますね。

そういうところでも、ここに出ているような意見が今どのように進んでいて、あるいはどの辺まで解決済みなのか、あるいは、現在、こういう提言からここまで行っていますということをもう少し吟味することが必要かなと。その上に立って、こういうのはやっぱり大事だねというところに行くのかなと思います。

岡倉副委員長 私は、今、皆さんの意見をああいう形で勝手にまとめられたというのは非常に腹が立つのです。皆さんは非常にいいことをいっぱい言われたじゃないですか。それをあんなですか。いろんな提案をされている、それをペーパーか何かに起こしていただけるのですか。そうすれば、それをまた今度のときに生かせると思いますけれども、何かあんな感じでまとめられて、何なんだと思いがらいますが。

社会空間研究所 申しわけございません。とりあえず概要をまとめさせていただきただけで、一言一言、その言葉の裏にある思いもできるだけ酌み上げるような形で整理を

し、それについてのデータなり、今ご指摘いただいたようなことを改めて整理したものを次回お出しして。

岡倉副委員長 次回じゃなくて、その前に送っていただけませんか。そうすれば、皆さん、見て、どういうことだというのがわかると思いますので、ぜひお願いします。

社会空間研究所 承知しました。

事務局 今、おっしゃられたとおり、きょうの結果をわかるようにペーパーでまとめて、事前にお送りして、自分の意見はこういうふうには言っていないとか、いろいろ修正があると思いますので、また意見をいただいて、また直してお出しするような作業をしますので、よろしくお願いします。

金光委員長 それは事前に皆さんに送れますか。次回の企画部会をいつやるか、まだ日には決定していませんけれども、それによりますね。これをまとめるのにどのぐらいの時間がかかるのかという形だろうと思いますけれども、多分割合わかりやすくまとめてくれると思うんです。今までの経験だと非常にわかりやすくまとめてくれていますから、私も余り問題視していないのですが、一応そういう流れで議事を進めていくということでもいいですか。いや、こうじゃない、こういうやり方をしたほうが良いという意見があれば、この場でお伺いします。——なければ、そういう形で議事を進行する形をとらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、今回の議題の話し合いについてはこれで終わりにしたいと思います。

その後のことについては、事務局からまた説明をお願いしたいと思います。

事務局 今、話が出ましたのは今後のスケジュール関係でございますけれども、参考資料2、第5期麻生区区民会議スケジュールイメージを見ていただきたいのですが、今、話が出ました第1回企画部会でございますけれども、9月か10月に開催を予定させていただきたいと思います。後日、企画部会と第2回の全体会議の日程調整を行いますので、皆様のほうに諮りますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

## 5 その他

金光委員長 ありがとうございます。

これで本日の検討すべき内容は全部検討したことになります。これで今日の会議は終了させていただきたいと思いますが、皆さん、お忙しいところ出席していただいて本当にありがとうございました。

最後に、今日出席していただいた参与の方からご意見、あるいはお話を伺いたいと思いますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

相原参与 熱心な議論を聞かせていただきまして、私もいい勉強になりました。特段意見はないのですが、議事進行役の委員長さんがこれだけ話をされる会議はなかなかユニークだなと思って拝聴していたところでございます。どうぞ活発なご議論をこれから

されることを心から期待しております。よろしく申し上げます。

## 6 閉会

金光委員長 どうもありがとうございました。

それでは、今日の会議はこれで終了させていただきたいと思います。突然の指名だったものですから、少し上がりながらの説明で、拙い司会でどうも申しわけございませんでした。きょうは本当にご苦労さまでした。

午後7時23分閉会